

図書館だより

'02.01

J.L.オースティンとエディンバラ大学図書館 大石 悦子(英語文化学科)

なぜ、今私が言語学、コミュニケーションを研究し、大学でこれに関する科目を教えているかを考えると、まさきに思うのは J.L.Austin の *How to Do Things with Words* (邦訳『言語と行為』) のことです。この本を読んだのは私が大学3年生の3月で、卒論で扱う内容を定めるために読んだ本の一冊でした。*How to Do Things with Words* は出版されたのは 1962



エディンバラ大学図書館 本館

年ですが、それより7年前にハーバード大学で講義が行われ、それをもとにこの本ができました。なぜ、1980年代半ばに私がこの本を読むことになったかは、当時新しい学問分野として研究が進んでいた語用論の理論の中で、Austin の「言語行為理論」が注目されていたからでした。また、英国流の意味論の研究も当時盛んで、例えば、Lyons の *Semantics* (『意味論』) や *Language, Meaning & Context* (『言語、意味、コンテキスト』) などでも、言語行為の問題は詳しく扱われていました。今から考えれば、つたない英語力でよく内容がつかめたと思うのですが、辞書を引き引き読み進める中で、なにかとても刺激的で、豊かな世界に出会った気がしました。それまで、言語は安定した、揺るぎない意味を伝えると信じていました。また、英文科の学生として、英語という言語の伝える意味を学んでいると信じていました。

目 次

J.L.オースティンとエディンバラ大学図書館 …… 1 大石 悦子	お知らせ&お願い …… 6
パソコンで新聞を読もう！ピギナー編 …… 4	

それが、この本を読んで、言語というのはもっと危ういものの上に存在しているのではないか、こんな危うさの上に乗っていながらそれでも揺るぎないものと思えるからくりがあるのではないか、と思ったのです。

発話行為の例として、*I name this ship the Queen Elizabeth*（「この船をクイーン・エリザベス号と名付けます」）という文の発話があります。この発話によって、船はクイーン・エリザベス号になるわけですが、この発話は数限りない「名付けが成立しない」可能性をかいくぐって成立しています。名付けるべき人ではない人が発話したとか、もう、すでに名前が付いていたとか、発話によって船の名付けができる慣習がないとか（自動車に名付けができるかとか、鉛筆に名付けができるか、などを考えてみてください）、また、言い間違いによって名付けと認められないような場合もあるでしょう。それにも関わらず、こうやって名付けられた船はクイーン・エリザベス号で、それはこの船が解体されるまで変わることがないと、私たちに確信を持って思えます。この現実感はどこから来るのでしょうか？英語を話さない人にとっては、単なる無意味な音の連続としか思えないもののどこからそんな現実感が生まれるのでしょうか？そんなことを可能にする言語とはいったいどんなものなのでしょう？

ナイーヴにも、この問いに自分なりの答えを出したいと思って、勉強を続けました。大学、大学院で指導を受けた先生は私のこのナイーヴさに寛容で、好きに勉強させてくれました。他の先生方が、指導学生に理論枠組みを厳しく指導していたのにも関わらず、です。あの当時、日本ではまだまだ変形文法という言語理論が強い時代でしたから、その枠を強要されていたら私が自分のやりたいことをやれる可能性は全くありませんでした。この先生には本当に感謝しています。

このナイーヴさは英国の学問の伝統によって、十分たたかれました。面白いから、自分の問いに対する答えを出したいなどという「甘い」ものは何にも値しない、と。そこから、このナイーヴなものをもう一度問い直す、地味な作業が始まりました。私がそこで身をもって学んだのは、「歴史性」ということです。私たちはある特定の時空間の中で生きています。だから、私たちが今、「普遍的」、「絶対的」と思っているものも実はある特定の時代の、例えば20世紀の、特殊な産物でしかないかもしれません。または、「独創的」と思えるものも、たまたま、その時代にそう思えるだけで、他の時代にはかなり受け入れられたものであるかもしれません。だから、「たまたまその時代にそう思える」という偶然性の上に学問を置いてははいけません。また、

まるで自分から新しく歴史を始めるように振る舞ってははいけない。長く残ってきたものは、いろいろな時代の試練を経験し、それでも生き延びてきた「なにか」があるのだから。その歴史の重みを引き受けたい、天からふったか、地からわいたかのようなものはいっさい認めないと、学問の伝統は私に教えました。それでも、英国はフェアでした。私のナイーヴさはたたかれましたが、私がナイーヴながらも自分の問題意識から出発していることには同情的でした。

これらのことを学んだのは、特定の言葉を通してではありませんでした。指導教官とのやりとりの中の言葉のはしばしや、研究者の研究の仕方の中からも学びましたが、エディンバラ大学の図書館も私に多くのことを教えました。図書館の中の雰囲気が人になにかを悟らせるのです。人の家に行って、その家の中に漂う雰囲気から、ここに暮らしている人は幸せなんだろうな、とか、不幸そうだなって感じるがありますが、それと似ています。エディンバラ大学の図書館本館はさして古くはないのですが、5階建ての大きい建物で、本がぎっしり詰まっています。古い本もたくさんあります。18世紀の皮表紙の本などが、展示されているのではなく、その辺に何気なく置いてあります。それを学生、研究者が真剣に読んでいます。そ

れぞれ、お気に入りの場所があって、いつも同じところに陣取ります。毎日、毎日、です。オックスフォード大学に留学していた友人が、図書館でいつも同じところに座って勉強している人がいて、卒業して何年かたって、また図書館に行ったらやはり同じところにその人が座っていた、と言っていました。図書館では時間がゆっくり流れます。違う時代の、違う社会の中で、自分がぶつかっている問題と似たような問題にぶつかった研究者と出会う貴重な経験もあります。著者が地道に研究を積み上げて、なにかを明らかにさせようとしているおびただしい数の本を見て、自分の研究の小ささががっかりすることもあります。研究者としての私はあの図書館から出発しました。

参考文献

「How to do things with words」

J.L.Austin

Harvard Univ. Press, c1975

本館 801/A96h

「言語と行為」

J.L.オースティン著 坂本百大訳

大修館書店, 1978

本館 801/A96

「Semantics」

John Lyons

Cambridge Univ. Press, 1977

本館 801.4/L99s/2



パソコンで新聞を読もう! ビギナー編



日々移り変わる社会の情報を私達はテレビや新聞等で得ています。情報は、ときを逃すと「はて?」と思うほど次から次へと新しくなっていきますね。そんなとき、図書館では新聞記事を過去に遡って、パソコンで読むことができます。レポートや授業の予習・復習で忙しい皆さん、見逃したニュースを読むことができます。今、起こっていることをもっと知りたいという方、その知識欲を満足させることができるチャンスです。この機会にパソコンで新聞を読んでみませんか?

図書館には『朝日新聞記事検索DNA』と『日経テレコン21』という新聞検索ツールがあります。

『朝日新聞記事検索DNA』は<朝日新聞・AERA・週刊朝日>の記事を検索できます。『日経テレコン21』は、地方紙にも及ぶたくさんの新聞記事を読むことができます。

今回はビギナー編ですので、検索の仕方が簡単な『朝日新聞記事検索DNA』を使って検索してみましょう。

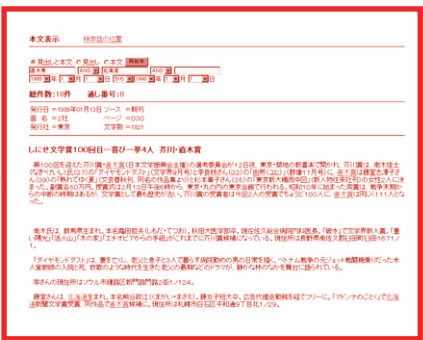
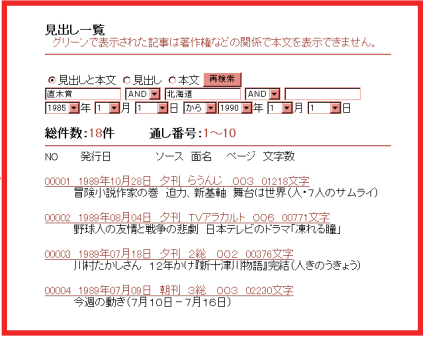
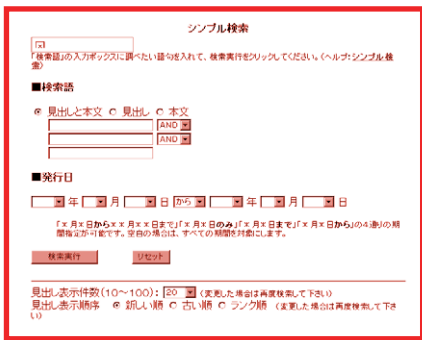


たとえば、

検索語を【直木賞、北海道】にし、
発行年を1985年1月1日から1990年1月1日にしてみましょう。

シンプル検索

検索入力項目が少なく、簡単に検索できます。



1 検索語を入力した後、検索実行をクリック。

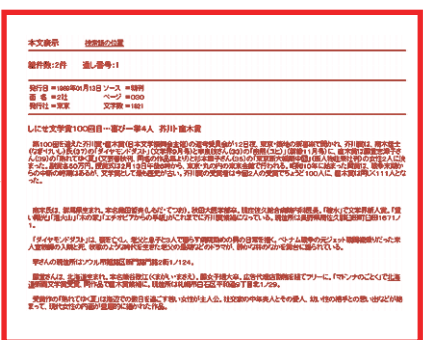
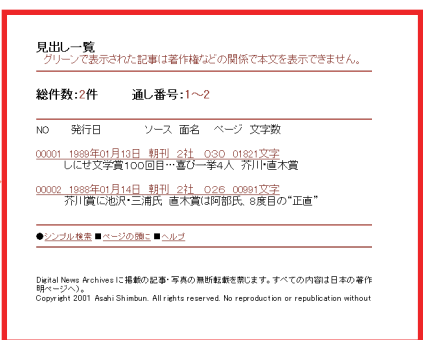
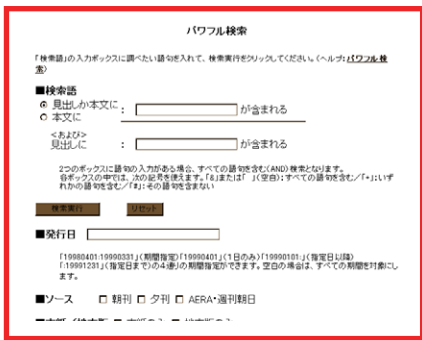
2 見出しの中から、読みたいものをクリックしましょう。

3 本文が見られます。

(ただし、著作権の関係から本文の表示ができないものもあります。)

パワフル検索

シンプル検索よりももっと絞り込んで記事を探したい時は、
こちらを使うと便利です。

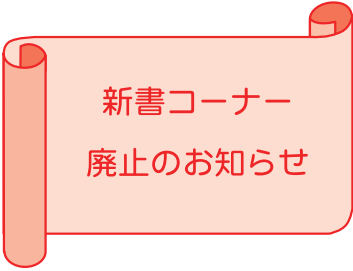


1 検索語を入力した後、検索実行をクリック。

2 見出しの中から、読みたいものをクリックしましょう。

3 本文が見られます。

(ただし、著作権の関係から本文の表示ができないものもあります。)



新書コーナー
廃止のお知らせ

本館では、新書(岩波新書、中公新書、講談社現代新書、文庫クセジュ)を別置していましたが、利用者みなさんの使いやすさを考慮し、一般図書と一緒に並べることにしました。もとの新書コーナーは、指定図書コーナーになりました。

卒業されるみなさんへ

卒業しても、図書館は利用できます。貸出の冊数は各館10冊、合計20冊まで、期間は通常2週間です。使い慣れた母校の図書館をこれからもどうぞ活用してください。



雪の季節です!!
本の扱いには充分注意しましょう。
水濡れ・汚損の場合は弁償していただく
こととなります。
雪の日には、必ずビニール袋に入れる
などして持ち運ぶようにしてください。



藤女子大学 図書館だより 第61号 2002.01

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011-736-5405 FAX 011-709-4770
<http://library.fujjoshi.ac.jp/index.html>